

事務事業評価

平成 29 年度

担当課 スポーツ課

基本事項	事務事業名	JFAこころのプロジェクト「夢の教室」				整理番号	2416
	根拠法令等					実施を義務付ける規定	<input type="radio"/> あり <input checked="" type="radio"/> なし
	関連する市勢振興計画の基本計画	章	第7章 生きる力と創造力を持った人を育てる	予算科目	10款 5項 2目	<input type="radio"/> 継続 <input checked="" type="radio"/> 新規	
		節	第6節 スポーツの充実	事業区分	助成・育成		

事業の目的・実施状況等	事業の背景 (課題、市民の要望等)	「JFAこころのプロジェクト」は、子どもの心身の健全な成長に寄与することを目的に取り組んでいる活動である。Jリーガーやなでしこジャパン、日本代表として活躍している新旧選手をはじめ様々なアスリートを、特別授業講師「夢先生」として迎え、実体験等に基づく授業を通して、フェアプレー精神や夢を持つことの素晴らしさ、失敗を乗り越えて夢や目標に向けて努力しようとする意識や態度を育む。				計画期間	始期	平成	26	年度から	
	事業の対象 (誰に・何に対して) 目的 (どのような状態にしたいのか)	小学5年生を対象に、プロや日本代表として活躍している新旧選手と一緒にゲームをしたり、講義を受けたりすることを通して、児童の夢に対する意識の高揚を図り、根気強く努力しようとする姿の実現。				終期	平成		年度まで		
	目的達成のための具体的手段・方法	公益財団法人日本サッカー協会と契約を交わし、市内小学校9校に様々なアスリートを派遣してもらい、「夢の教室」を実施する。									
	成果指標 (目的達成度を図るものさし)	名称等(内容)		単位	27年度	28年度	29年度				
		①担任に対し、「夢の教室」実施に関するアンケートを行い、児童の変容に関する意見を文書で報告してもらう。	目標								
実績											
達成率			%								
②担任に対し、「夢の教室」実施に関するアンケートを行い、「教育効果あり」が100%を目指す。		目標		95	95	95					
		実績		100	100						
	達成率	%	105.3	105.3	0.0						
活動指標 (目的達成のために行った活動実績)	①各学校と連絡調整を行い、5年生の年間計画に「夢の教室」を設定し、確実に実施する。	目標	校	9	9	9					
		実績	校	9	9	9					
	②目標・・・5年生全クラス数 実績・・・実施クラス数	目標	クラス	11	15	14					
		実績	クラス	11	15	14					

事業費等の推移	区分	年度		25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度
		実績値	実績値	実績値	実績値	予算	計画		
①直接事業費(千円)	国 県 支 出 金		2,754	2,209	2,970	2,975			
	地 方 債								
	そ の 他								
	一 般 財 源	0	2,754	2,209	2,970	2,975	0		
	②従事職員給与費 b1×b2	0	5,634	4,983	6,212	6,037	0		
従事職員数(人) b1		0.00	0.77	0.67	0.83	0.80	0.00		
	職員平均人件費 b2	7,213	7,317	7,438	7,484	7,546			
事業費合計 ① + ②		0	8,388	7,192	9,182	9,012	0		

【1次評価】

事務事業の評価項目と評価の視点		評価内容（判断理由、課題等）	
必要性	①社会環境の変化や市民ニーズに照らして、事業の必要性が薄れていないか	A=薄れていない B=一部薄れている C=薄れている これまでのアンケート結果から事業の継続を願う声が多い。他市から転入し、初めて知った市民から称賛の声を聞く。	判定 A
	②事業を民間(NPO、市民、ボランティア等)に実施させることはできないか	A=市以外での実施は困難 B=一部民間での実施可能 C=民間での実施可能 市としてのメリットがあり、日本サッカー協会との調定、契約、実施を考えると民間では困難と考える。	A
	③対象者は事業目的に見合っているか。また、事業を取り巻く時代変化や制度改正など、環境の変化に適応しているか	A=概ね適切 B=改善の余地あり C=見直しが必要 最高学年になる前の5年生で実施することは、6年生に向けリーダー制をもって体験を実現するに当たり適切である。中学2年生でも実施ができるとさらに充実すると考える。	B
有効性	④成果指標の達成に十分寄与する手法がとられており、結果として目的が達成されているか (成果指標と連動させること A=達成 B=概ね達成 C=未達成)	A=達成している B=一部達成している C=あまり達成していない 事前打ち合わせで周知を図り、ゲームの時間、トークの時間と子どもがなじみやすい適切な手法がとられている。	A
	⑤事業効果をさらにあげる余地はないか	A=効果向上の余地はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 中学2年生でも実施ができるとさらに充実すると考える。	B
効率性	⑥事業実施により、費用や業務量に見合った活動結果が得られているか (活動指標と連動させる A=達成 B=一部未達成 C=未達成)	A=得られている B=一部得られている C=見直しが必要 実施したクラスの担任のアンケートでは、全員が「教育効果があった」と回答しているため、活動結果が得られている。	A
	⑦必要な活動結果がより少ない費用や業務量で得られる手法に代えられないか	A=現行以上の手法はない B=一部検討の余地がある C=検討の余地がある 夢の教室週間を設けるなどして、期間をまとめることで費用が軽減できると考える。会議等の学校現場の実情に合わせた検討が必要である。	B
	⑧組織間の連携や役割分担に改善の余地はないか	A=改善の余地はない B=一部改善の余地がある C=改善の余地がある スポーツ振興の概念があるため改善の必要はない。	A
公平性	⑨事業の対象者全員に偏りなくサービスが提供されているか 全体コストから見て受益者の負担割合は適切か 使用料等の見直しの余地はないか	A=概ね適切 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要 5年生を対象に設定しているため、市内児童に余すことなく実施できている。	A
	⑩市民参加、市民協働が配慮されているか、市民参加を拡大する余地や、新たに取り組む余地がないか	A=概ね適切・現状維持 B=検討・改善の余地あり C=見直しが必要	

判定評点平均（3点満点）

A=3、B=2、C=1、「-」=0として換算

2.67

◎ 総合自己評価（所管部署）

評価結果	<input checked="" type="radio"/> A 継続実施（特段の見直しは行わない）	判断理由 事業を開始して4年目であり、事業に対する理解が深まりつつある。児童からは、5年生になると受講できることを楽しみにしている様子が見える。
	<input type="radio"/> B 改善・見直しを行う	
	<input type="radio"/> B1 事業規模の拡充	
	<input type="radio"/> B2 事業規模の縮小	
	<input type="radio"/> B3 事業内容の改善・見直し	
	<input type="radio"/> B4 その他の見直し	
今後の課題及び改善策、見直しの状況	<input type="radio"/> C 休止（隔年実施などへの変更）	(実施上の課題等) 夢先生の希望を相談しているが、夢先生のスケジュール等で指定ができないとのこと。
	<input type="radio"/> D 廃止（終期の設定等を含む）	
<p>・総合評価で、「見直し・改善」を行うとした場合、見直しを行う上での今後の課題や事務事業の改善・見直しを行うことにより予想される効果も併せて記載ください。 ・本年度の事業を実施するにあたり、事業内容等の見直し(改革・改善、終期の設定など)を行っている場合は、その内容についても記載ください。</p>		

【2次評価】

総合判定	B4見直しのうえで実施 → その他の見直し
備考	貴重な体験ができるプログラム内容については評価できるが、事業実施から3年が経過したので一度効果検証を行う時期に来ているのではないかと。事業目的を達成するために他の方法を模索したり、他事業との統合を検討する余地がある。

【3次評価】

総合判定	
備考	

評価結果を踏まえた次年度予算への反映状況

① <input type="checkbox"/> 事業費削減(事業の見直し)	③ <input type="checkbox"/> 成果向上に向けた事業費増加	↓ 予算措置額の増減 76 (千円)
② <input type="checkbox"/> 民間委託等によるコストの削減	④ <input checked="" type="checkbox"/> 事務の効率化による現状維持(事業内容の拡充)	